

日本エム・イー学会平成12年度第4回理事会議事録

日時：平成13年1月19日（金） 13:30～15:30

会場：学会分館8号室

<出席者>

会 長：佐藤俊輔
副 会 長：上野照剛
理 事：稲田 紘，梶谷文彦，楠岡英雄，林紘三郎，保坂栄弘，堀 正二，松尾裕英，南谷晴之
監 事：千田彰一，戸川達男
大 会 長：神谷 暲（第39回春季大会），鳥脇純一郎（第40回春季大会）
特別委員長：赤澤堅造（広報委員会）
支 部 長：山内一信
幹 事：野村泰伸
事 務 局：高柳 建

<欠席者>

副 会 長：辻 隆之
理 事：菊地 眞，北畠 颯，土肥健純，佐藤正明，菅 弘之，半田康延，山本克之

1. 理事会成立が確認された。
2. 平成12年度第3回理事会議事録（12-4-2）が承認された。佐藤会長から、会員に対する議事内容の迅速公開の必要性と、その具体的対策として、議事録承認後に、これをウェブ上の学会ホームページ（HP）を通じて公開することが提案された。これに対し、広報（赤澤理事）によって、理事会で承認された本年度議事録から、これをHP上で公開することとなった。「迅速」という目的を達成するためには、議事録の承認を次回理事会を待たずに、理事に対してEメールを送付することで行えないかが検討された。
3. ME学会論文誌の投稿規定改訂および、名称変更について議論された（12-4-3）。投稿規定に関しては、二重投稿を厳しく防止する目的で、現行の原稿3部と投稿票の提出に加え、新规定では、共著者による誓約書の提出を規定する。これが承認された。名称に関しては、「医用電子と生体工学」編集部から「生体医工学」が提案され、他の可能性を含めて議論された。2002年から変更を実施する場合、2001年5月の総会までに決着する必要がある。評議委員にも意見を聞く必要があるかもしれない。
4. 選挙管理：委員の佐藤（正）理事欠席のため佐藤会長より、平成13・14年度理事・監事候補者推薦結果が報告された（M系9名，E系13名：12-4-4）。今後、2月7日までに投票，同22日開票，次回理事会で結果を確認する。
5. 保坂理事より，平成12年度会計の中間報告と平成13年度収支予算案が報告された（12-4-5）。楠岡理事から，報告内容の科学新聞賞収入が，補助金収入と特定預金受付利息収入の両方に計上されている旨の記述上の誤りが指摘された。上野副会長から，MEフォーラム（1/29開催）に出席される Profs. Jaron and Nerem 両氏に対する参加費支援を国際協力活動費から拠出できないかとの問い合わせがあり，財務としては了承。後日，本日欠席の菊地理事に了承を得ることになった。稲田理事から，なぜ科学新聞社から受ける科学新聞賞財源10万円が他の学会賞と同じく特定預金受取利息収入の項目に含まれるのか質問があり，事務局より，公認会計士の指導によるものであることが報告された。千田監事より，科研費による学会正式論文誌に対する補助は英文誌に対してのみ行われるので，FMBE誌を正式論文誌にすることでこの問題を解決できないかという案が出されたが，FMBE誌の発行元がME学会ではないため，これも対象外であることが判明した。
6. 赤澤広報委員会委員長より，学会の運営状況を広く公開する目的を達成するために広報委員会で行っている活動状況が報告され，関連事項が審議された（12-4-6）。特に，学会HPを充実させていくこと（理事会議事録，英文HP作成，支部・専門別研究会・学会雑誌の目次等に関する情報を充実させること，今後のME学会大会のプログラムを検索可能な形で掲載することなど）が議論された。必要予算は，広報委員会の予算に組み込む。
7. 稲田理事より，ME技術教育委員会委員の案が提出され，承認された（12-4-7-①）。また，平成13年度ME技術実力検定試験の予定が報告された。
8. 会員：入退会希望者リストが回覧され，これらについて個人会員全件を承認した。この結果，正会員43名減で3,632名，準会員1名増で288名となった。維持会員の数は，変動なしで36社58口である。法人会員退会の申し出のあった医療機器メーカー3社（12-4-8-②）に関しては，これを保留し，慰留することとした。ME学会と企業がより活発に協力・関連して，MEの発展を計っていくためには，企業側からの理事を選出することが必要であることが議論された。
9. 第39回大会の会計報告が，神谷同大会大会長よりなされた（12-4-9）。1,000人を越す参加者があり，かつ会場利用費（国立教育会館）が低料金であったため，予定されていた補助金を減額したことが報告された。
10. 第40回大会準備報告：鳥脇純一郎大会長から準備状況の報告があった（12-4-10）。2001年5月9,10,11日，名古屋国際会議場，テーマ「BMEにおけるIT革命」。現在，一般演題に対する査読結果が送付されつつあり，2月中旬が原稿締め切り。10件を超えるオーガナイズドセッションを予定していること，特別講演，

シンポジウムの開催予定などが報告された。

- 1 1. 梶谷理事より、ME 研究推進の一環として、科研費特定Aに課題名「医学生物学の新しい機能原理ーフィジオームー」で申請を行ったことが報告された。これに対し、佐藤会長から、通産省でも日本型BECONとして「医療技術産業戦略コンソーシアム」などの関連活動があり、ME学会としても積極的に関わっていく旨のコメントがあった。
- 1 2. 学術：南谷理事より、平成12年度ME学会専門別研究会協議会の議事報告がなされた(12-4-12)。同会には、15研究会の会長(もしくは代行)の参加があり、医用生体工学分野への活発な科研応募の促進、専門別研究会の活性化、若手育成のスクール開催の必要性などが議論されたことが報告された。
- 1 3. その他：
 - ◇上野副会長から、MEフォーラム：21世紀の医用生体工学(平成13年1月29日)を共催するエム・イー学会から、同フォーラムに対する補助の可能性が議論された(上記5.参照)。
 - ◇神谷前大会長より、ワシントンで開催されたBME教育サミット(Biomedical Engineering Education Summit)に関する報告がなされた。
 - ◇上野副会長から、同氏が日本学術会議の医用生体工学連絡会議の18期委員長に、岡野光夫、堀正二、谷下一夫各氏が幹事に就任されたこと、本年1月のMEフォーラムをはじめ、今後の活動予定が報告された。特に、日本と海外のBMEの活動調査を、南谷理事を幹事として進めていく予定であることが報告された。
 - ◇佐藤会長より、ME教科書出版の進捗状況が報告された(追加資料3)。
 - ◇佐藤会長より、江刺先生を通じて3月27日に開催予定のMedical Technology Seminar(主催：ノルウェー王国大使館通商技術部)の後援依頼を受けた旨の報告があり、後援が承認された(追加資料4)。
 - ◇佐藤会長より、4月23-24日神戸で開催されるIn Silico techniques in drug discovery and developmentに梶谷理事に参加していただくことが報告された(追加資料4)。同会の主催者 Dinse Noble 氏には、科研特定A申請の海外アドバイザーをしていただいている。

(配布資料)

平成12年度第4回理事会議題

- | | |
|----------|-----------------------------|
| 12-4-2 | 平成12年度第3回理事会議事録 |
| 12-4-3 | 「医用電子と生体工学」編集委員会報告 |
| 12-4-4 | 平成13・14年度理事・監事候補者推薦結果 |
| 12-4-5 | 平成12年度会計中間報告および平成13年度収支予算案 |
| 12-4-6 | 日本エム・イー学会広報委員会 |
| 12-4-7-① | ME技術教育委員会委員(案) |
| 12-4-8-① | 入退会者名簿(回覧) |
| 12-4-8-② | 法人会員退会届のコピー |
| 12-4-9 | 第39回日本エム・イー学会大会決算 |
| 12-4-10 | 第40回日本エム・イー学会大会 |
| 12-4-12 | 平成12年度日本エム・イー学会専門別研究会協議会 |
| 追加資料1 | 日本エム・イー学会平成12年度第2回理事会議事録(案) |
| 追加資料2 | 日本エム・イー学会平成12年度第3回理事会議事録(案) |
| 追加資料3 | 教育委員会報告 |
| 追加資料4 | その他3件 |